HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	8. 学生と学生のつながりからの情報収集 ： 2012年本活の報告
Author(s)	水野, 愛海
Description	第2部: 可能性と多様性を提示するピア・サポート
Relation	北海道大学ピア・サポート活動報告書（平成23年度版）p.97-109
Issue Date	2012-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/49498
Type	report
File Information	08.mizuno.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

８．学生と学生のつながりからの情報収集

―2012 年本活の報告

水野愛海[1]

１．はじめに

ピア・サポートではつながり創出のためのイベントとして平成 22 年から「本活」というイベントを行っている。本活では上級生からいらなくなった本を回収し、集めた本はピア・サポート室に置き、学生が自由に見られるようにしている。それをテスト前に勉強するために利用したり、暇つぶしに読んだりしている学生や、一般の方々が立ち寄って本を読んでいるという場面が多く見られる。平成 22 年度の本活はピア・サポートが初めて行ったイベントであったが、多くの学生が参加しピア・サポート室を周知させることができた。平成 23 年度の本活では多くの学生から本を提供してもらい、現在その本をピア・サポート室を利用する学生が毎日利用している。このように過去 2 回のイベントは成功したと判断し、今年も本活を実施することを決定した。そして、今までの本活の目的に加えて今年は後期の方針としてかまモン化計画を実施したため、二つの目的を持って企画が進められている。

２．企画の目的

今年度の本活では、前年度の本活の目的でも挙げられている「学術的な引き継ぎを行う」こと、「新入生にピア・サポートという組織の周知を図る」ことの 2 点を引き続き目的とした。そして、その 2 点に今年度新たに加えた目的は「北大生の多様な学生生活の過ごし方の情報を収集する」ことである。この目的は後期の方針としてのかまモン化計画の実施のために加えられた目的である。

①学術的な引き継ぎを行う

これまで行ってきた本活でも学生同士のつながりを創出するということを目的としてきた。学生から本を回収して、その本を他の学生がピア・サポート室で見られるようにすることで、上級生が学生生活の中で使い学んだ本を通じて下級生が学習の仕方を学んだり、自らの興味関心を高めたりすることができる。このように、ピア・サポートが学生間の学術的な引き継ぎを行うことで、多くの学生の進路選択などのきっかけになるなどの効果が期待できる。

②新入生にピア・サポートという組織の周知を図る

ピア・サポート室は新入生が多く通る場所に位置している。しかし、いろいろなことに不安を抱えながら入学してきた新入生にとってはどのように利用していいのかわかりにくいと思われるため、協同購入のサポートなど新学期のサポートを通して、ピア・サポート室の周知を図り、利用しやすさを感じてもらう。

---

[1] 北海道大学教育学部　学部生

以上の 2 点の目的は昨年から引き続いて挙げられる目的である。

③北大生の多様な学生生活の過ごし方の情報を収集する

今年度の後期の方針として　章で示されているかまモン化計画を実施した。かまモン化計画とは学生生活における可能性と多様性を学生に提示することをめざした計画である。このかまモン化計画に沿って行われた 12 月のピア・カフェではまず、学生が本当に知りたいと思っている情報を提供するために、主に 1 年生が学生生活でどのようなことに不安を感じ、どのようなことを知りたいのかを聞くためのアンケートを実施した。そして、ピア・カフェで集められた情報を元に、主に学部 3 年生以上の学生にこれまでの学生生活を振り返ってもらい、それぞれの学生生活の過ごし方を集めることにした。そこで、今年度の本活では、上級生がピア・サポート室に本を持ってくる機会を利用して情報収集を行うことを新たな目的とした。このように、本活で情報を集めることで、今後の学部紹介や通常の相談業務でピア・サポーターが学生に多様な学生生活の過ごし方のヒントを提示することができる。

以上、「学術的な引き継ぎを行う」こと、「新入生にピア・サポートという組織の周知を図る」こと、「北大生の多様な学生生活の過ごし方の情報を収集する」ことの三つを本企画の目的とした。

３．企画の内容

３．１　学術的な引き継ぎのために―本の回収

本の回収の告知をするために行った広報の主な方法は、昨年度と同様に各学部棟、教養棟、ピア・サポート室前の廊下、ピア・サポート室内へのポスターの掲示である。その他に、ピア・サポート室前には誰でも持って帰ることができるようにチラシを設置し、ピア・サポート室内の各テーブルには三角ポップの設置をした。教養棟ロビーの電光掲示板での呼びかけも行った。回収は 1 月 17 日に開始したが、昨年の 1 月は 150 冊回収したのに対して、今年の 1 月は 14 冊しか回収できなかった。このように本を持ち込む人の人数が少なかったため、現在、各学部棟へチラシの設置や図書館へのポスター掲示など範囲を広めて広報を行っている。

上記のように、今年の本の回収は 1 月 17 日から開始した。昨年と同様に本を持ってきてくれた学生は、本の値段と冊数応じたポイントと生活用品や文房具と交換できるという形にした。また、教科書であればその本を授業でどのように利用したか、教科書以外の文庫・参考書などの本であればその本の感想などを書いてもらい、学生が本をどのように利用したのかがわかるようなアンケートを記入してもらった。このアンケートは 1 枚につき 1 ポイントとして景品と交換できるようにした。提供された本は昨年と同様にピア・サポート室で閲覧できるように置いている。

３．２　新入生への周知

昨年と同様に今年も協同購入のサポートを行う予定である。昨年の本活では、必修科目

はクラスの中で多くの人が同じ教科書を使うため人数を集めることが容易であり、逆に選択科目は人数が少なく協同購入のための人数を集めることが難しいと考えた。そのため、選択科目にこそ学生間のつながりを形成するためのサポートが必要であると考え、選択科目に絞って協同購入のサポートを行った。しかし、選択科目は元々受講者が少ないために協同購入を成立させることが難しいことがわかり、昨年の本活では一件も成立させることができなかった。また、昨年は総合入試が導入され、これまでとクラス編成が変わったため同じクラスでも人数を集めることが難しく、語学などの必修科目に対するニーズが強さも窺えた。そして、昨年は申込みと購入のために 1 冊につき 2 回はピア・サポート室に来てもらう必要があったため購入希望の学生に負担がかかってしまった。また、人数に達することができずにピア・サポート室に来ても協同購入できずに帰るという学生が多く出てしまった。

このような反省から、今年度は必修科目に絞って協同購入を行うことにした。それにより、人数が集まりやすくなり、協同購入が不成立となった学生に迷惑をかけてしまうことも少なくなるのではないかと考えている。また、新入生全員に配られるクラオリパックに告知のビラを入れ、そのビラにあらかじめ教科書ごとの購入希望者の集合日時を記載することで、一度申し込みに来て再度購入のために集まるということがなくなる。また、必修科目に絞ることで、廊下に現時点で何人集まっているかがわかるような掲示をするなど、現時点でその程度人数が集まっているのかがわかるようにすることで協同購入への参加者が増えると考えている。

以上、協同購入において、昨年度からの改良点は、「必修科目に絞って行う」こと、「あらかじめ集合時間を告知する」こと、「何人集まっているかがわかるような掲示をする」ことの 3 点である。

３．３　北大生の学生生活の収集

本の回収で昨年と大きく違う点として、今年は本を持ってきてくれた学生全員に学生生活に関するアンケートと 10 分程度のインタビューを行ったという点である。学生にはまず学生生活の内容ごとに満足度を聞くアンケートに答えてもらった（資料１）。ピア・カフェで行ったアンケートでは、これまでの学生生活で行ってきたことのうち何に満足し、何に満足していないのか、今後は何に力を入れたいのかを、授業の予習・復習・課題、部活・サークル、ボランティアなどの項目に分けて聞いた。今回のアンケートでもピア・カフェのアンケートに合わせた項目に分け、それぞれの項目でどれだけ満足しているのかを回答してもらった。さらに、その項目の中から最も満足しているものと最も満足していないものを一つずつ挙げてもらい、最も満足している項目について、さらに詳しく聞くためにインタビューを行った。以下の資料は使用したアンケートである。

本日は本を提供いただき、ありがとうございます。
ピア・サポートは、「学生による学生支援」を行う組織です。皆さんの大学生活での経験を少しでも後輩に還元できるような企画の一環です。ご協力よろしくお願いいたします。

北海道大学ピア・サポート

Ⅰ．まずはあなたのプロフィールをお聞かせ下さい。

学部…　総合理系　・　総合文系　・　＿＿＿＿学部・大学院
学年…　＿＿＿＿＿＿年生
性別…　男性　・　女性
出身地…　札幌　・　札幌以外の道内（　　）　・道外（　　）

自分の似顔絵を書いて下さい

これまでのピア・サポート室の利用回数…（今回を入れて）計＿＿＿＿＿＿

1．以下の項目について、当てはまるものに○をつけて下さい。

(a)授業の予習・復習・課題　（満足・やや満足・やや不満足・不満足・やっていない）
(b)研究・ゼミ　（満足・やや満足・やや不満足・不満足・やっていない）
(c)資格試験の勉強　（満足・やや満足・やや不満足・不満足・やっていない）
(d)部活・サークル　（満足・やや満足・やや不満足・不満足・やっていない）
(e)アルバイト　（満足・やや満足・やや不満足・不満足・やっていない）
(f)就職活動　（満足・やや満足・やや不満足・不満足・やっていない）
(g)ボランティア　（満足・やや満足・やや不満足・不満足・やっていない）
(h)恋愛　（満足・やや満足・やや不満足・不満足・やっていない）
(i)趣味（部活・サークル以外）　（満足・やや満足・やや不満足・不満足・やっていない）
(j)遊び　（満足・やや満足・やや不満足・不満足・やっていない）
(k)留学　（満足・やや満足・やや不満足・不満足・やっていない）

2．上の各項目のうち最も満足していることを記号でお書き下さい。また、理由もお書きください。

＿＿＿＿＿＿

理由＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

3．上の項目のうち最も満足していないことを記号でお書き下さい。また、その理由もお書きください。

＿＿＿＿＿＿

理由＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

資料１　アンケート

また、ピア・カフェのアンケートでは今後の学生生活でどのようなことが不安なのか、学部についてどのようことが知りたいのかなどを自由記述で書いてもらった。そこからは「学部の授業がどれくらい忙しくなるのか気になる」という疑問や、「部活がきつくて、行きたい学部にいけない」という不安などが集まった。この結果を受けて、インタビューでどのようなことを聞くかをまとめたインタビュー用紙を作成した（資料 2）。このインタビュー用紙には、アンケートで集まった 1 年生が知りたいことがそれぞれの項目ごとに分か

れてまとめられている。インタビューはこの用紙を使用して、上述したように学生生活で最も満足していることについて一人 10 分程度行った。最も満足していないことについては、インタビューに時間がかかりすぎてインタビューを受ける学生に負担をかけてしまうことや、満足していないことはあまり話したくないのではないかと考えたため、インタビューでは聞かないことにした。インタビュー中はできるだけ聞いたことを用紙にメモするようにし（資料 3)、インタビュー終了後は、後で誰が見てもわかるように Word ファイルに残した（資料 4，5)。インタビューで集めた情報の活用方法は　章で示される。以下の資料はインタビュー用紙の例とインタビュー時のメモ、インタビュー後にまとめた Word ファイルである。

【部活・サークル】

1．どのような部活またはサークルに所属していますか。

2．なぜその部活・サークルに入ろうと思ったのですか。

3．いつからその部活またはサークルに所属していますか。

4．授業との両立は大変でしたか。

5．研究やゼミとの両立は大変でしたか。

6．両立させるための工夫があれば教えて下さい。

7．部活・サークルをしていた時の１週間のスケジュールを教えて下さい。

資料 2　インタビュー用紙（部活・サークル用）

【部活・サークル】

1．どのような部活またはサークルに所属していますか。

北大の オケに所属してます。バイオリンです。高校のときから。

2．なぜその部活・サークルに入ろうと思ったのですか。

Q 高校のときからやってましたけど、どうしてま

高いバイオリンを活かしたい。 音楽が好きだから入る人と、楽器が好きだから入る人。

以外と合わせるのが下手

クラシックが好きだから

500～600枚 こっち来てから

3．いつからその部活またはサークルに所属していますか。

入学式の前々日から。説明会に入った。意外と早くからやってる

研究とかぶってしまう 4年までは だいたい出てる 火 19～21 ↳パート 木 18:30～21:00 日 10:00～17:00 全

春 秋も演奏1曲。 弦楽器は院生多いです。人数 前 パート 後 全体

全体で130～140人

4．授業との両立は大変でしたか。

授業 文は自分の思うように立てられるから

理系は実験とかがあって

休学してでも続ける人もいる。 除せきする人も それほど大変

5．研究やゼミとの両立は大変でしたか。

授業 フィールドワークの間は行けない 練習向けると大変 演奏会年3回

メインの練習期間と研究がかぶる

4曲 保育園で練

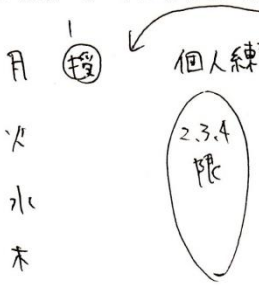
6．両立させるための工夫があれば教えて下さい。

バイトしている人もいた。自分をバイトをしなかったので。 17→8

↳どうやって両立 自分の個人練習 よくできる人はできる、できない人は…二極化

朝とか夜 ↳サ館 進路考えてなかった。4年の前も

7．部活・サークルをしていた時の1週間のスケジュールを教えて下さい。 就活セミナー 6月に院の先生のイベントに参加して 6月末に院に行くこと



月 1 授 個人練習 DVD なんとかなるか

火 2,3,4限 19-21 この時期

水 一つだけのことに集中するとパンクする

木 18:30-21 こうた

金 休み ↓ 学部にする

土 理系も研究室 3年まで

日 10:00-17:

オケの出身の人が

共演とかもあって

他の大学の人と関われる

資料3　インタビュー時のメモ

インタビュー結果
2月29日
15：30～16：00
番号：2-29-1
分類：部活・サークル
Q.どのような部活またはサークルに所属していますか？
A.北大のオーケストラに所属しています。
Q.オーケストラで何の楽器を演奏しているんですか？
A.バイオリンです。高校のころからやっていたので。
Q.高校の頃からやっていたということですが、なぜどうして大学に入ってからもやろうと思ったんですか？他のことやろうとか思わなかったですか？
A.ヴァイオリン高かったので他のことをやろうとは思わなかったですね。
オケに入る人は音楽が好きだから入る人と楽器が好きだから入る人がいますね。楽器が好きだから入る人は自分で弾くのが好きだから、全体で合わせるのが下手だったりしますね。
Q.音楽が好きだから入ったんですか？
A.そうですね。クラシックが好きなんです。CDも500枚～600枚持っています。
Q.それは高校の時から集めてるんですか？
A.実家の時はいなかだったので、こっちに来てからですね。
Q.いつからサークルに入ってるんですか？やはり4月ですか？
A.私は入学式の前々日くらいからですね。説明会に行ったんですよ。
Q.入学式前からサークルの説明会ってあるんですね。知らなかったです。
A.意外とやってるんですよ。
Q.今は大学院ですけどサークルはずっと続けてるんですか？
A.今は研究とかぶって演奏会に出れないということがありますね。4年生まではだいたい出てました。練習が火曜19時～21時、木曜は18時30分～21時、日曜は10時～17時なので、今は研究で日曜日の練習が行けないことが多く演奏会には1曲しかでれなかったり。
Q.日曜日長いですね。大学院生もサークルにたくさん来てるんですか？
A.弦楽器は院生も多いです。他の楽器より人数が必要なので。ヴァイオリンだけで20人くらいいます。
Q.研究が始まると大変そうですね。それでは授業との両立は大変でしたか？
A.文学部は結構時間割を自分の思うように立てられるのであまり大変じゃありませんでした。理系の人は実験の時間が決まってたりと大変そうでしたね。休学して続ける人もいますよ。除籍になってしまう人も…。
Q.それだけオケが好きで続けている人が多いんですね。先程の話からは研究が始まってからが大変そうでしたけど、研究が始まってからは両立はできましたか。
A.やはり 1 週間フィールドワークがあったりすると練習に行けない。練習抜けるとついて

資料4　Wordで残したメモ①

行くのが大変になるんですよね。演奏会が年に3回あって、3月と6月と11月なんですが、11月の演奏会は8月くらいから練習を始めるんですよ。でも夏休み期間は研究もフィールドワークがあったりして、メインの練習期間と研究がかぶってしまうんです。だから4曲あるうちの1曲だけ演奏したりとなってしまうんですよね。

Q.両立するための工夫ってありますか？

A.自分はバイトをしてなかったのでそこまで両立は大変じゃありませんでした。バイトしている人は深夜とか朝のコンビニのバイトとかしてましたね。火、木、日の練習以外に個人でも練習するので大変そうでしたね。自分の時間が欲しかったり、就職のために勉強したかったりでやめてしまう人もいますね。

Q.就活の時期は大変そうですね。

A.うまくやっている人とうまくやれてない人二極化してましたね。

Q.大学院に行くということはいつから決めていたんでか？

A.私は4年の6月くらいまで進路をどうするか決めてませんでした。考えてはいましたが。6月に今の院の先生と一緒にイベントをやって、そこで説明会行ってみたら？と言われて行ってみたんです。その辺で大学院に行くことを決めました。もう9月には院試でした。

Q.周りの人は決めていた時期だと思いますが、焦りませんでしたか？

A.そうでもなかったです。なんとかなるだろうって思ってました。

Q.そうなんですか。このころは忙しくてサークルに行けなかったですよね？

A.自分の場合は1つのことに集中するとパンクしてしまうので2つのことやるというのがいいんですよ。ヴァイオリン弾く時は頭をあまり使わないし。

Q.気分転換みたいな感じですね。それでは最後に、サークルをしているときの一週間のスケジュールを教えて下さい。

A.月曜　1限授業、その後北図書館でDVD見る、午後から個人練習
火曜　2～4限が授業、19時～21時サークル
水曜　↓
木曜　↓　18時30分～21時サークル
金曜　休み
土曜　休み
日曜　10時～17時サークル

Q.バイトしてないと仕送りだけで生活していたんですか？

A.親は家賃だけ払ってくれて後は奨学金ですね。サークルも1カ月1500円で他の大学に比べたら高くないです。
他の大学と共演とかもします。

Q.じゃあ他の大学の人と関われるんですね。

A.京都大学とかは毎年他の大学と共演しているみたいですよ。

Q.今日はたくさん時間いただいてしまって、ありがとうございました。

資料5　Wordで残したメモ②

以上のように、本を持ってきた学生はアンケートへの回答とインタビューを受けて、持ってきた本の値段と冊数に応じたポイントで文房具や生活用品と交換するという流れで、本の回収と情報収集を行った。

日程

以下の日程で企画を進めている(表１)。

表１　本活の日程

2011 年 11 月	平成 24 年度本活開催決定
2012 年 1 月	本の回収告知のポスター、回収時アンケート、インタビュー項目の作成
2012 年 1 月 16 日～	本の回収開始
2012 年 2 月 15 日	生協北部店書籍部の神力さんと協同購入の打ち合わせ
2012 年 3 月	協同購入サポートの準備
	クラオリパックのビラ作成
2012 年 4 月 10 日～	協同購入のサポート開始

４．途中結果

2 月末現在 78 冊の本と 12 人分のインタビュー結果が集まっている。しかし、本を持ってきてくれた学生だけでなく、ピア・サポーターの学生生活についても集めることも必要であると考えた。また、インタビューという方法はこれまでピア・サポートの活動で取り入れたことがなく不安があったため、インタビューのスキルを上げて上手く学生から話を引き出せるようになるために、ピア・サポーター同士で相互インタビューを行った。ここでは、これまで行ったインタビュー内容の例として、ピア・サポーター同士で行った相互インタビューの内容を挙げる。ここで挙げられている例のインタビューを受けたピア・サポーターは、アンケートで学生生活の中で最も満足していることは部活・サークルであると回答したため、部活・サークルについてのインタビューを行った。以下、インタビューの内容である。

Q.どのような部活またはサークルに所属していますか？
A.北大のオーケストラに所属しています。
Q.オーケストラで何の楽器を演奏しているんですか？
A.バイオリンです。高校のころからやっていたので。
Q.高校の頃からやっていたということですが、どうして大学に入ってからもやろうと思ったんですか？他のことやろうとかは思わなかったですか？
A.高校の時に買ったバイオリンが高かったので他のことをやろうとは思わなかったですね。オーケストラに入る人は音楽が好きだから入る人と楽器が好きだから入る人がいるんですよ。楽器が好きだから入る人は自分で弾くのが好きだから、全体で合わせるのが下手だっ

たりしますね。
Q.音楽が好きだから入ったんですか？
A.そうですね。クラシックが好きなんです。CD も 500 枚～600 枚持っています。
Q.それは高校の時から集めてるんですか？
A.実家の時は田舎だったので、こっちに来てからですね。
Q.いつからサークルに入ってるんですか？やはり 4 月ですか？
A.私は入学式の前々日くらいからですね。説明会に行ったんですよ。
Q.入学式前からサークルの説明会ってあるんですね。知らなかったです。
A.意外とやってるんですよ。
Q.今は大学院生ですけどサークルはずっと続けてるんですか？
A.今は研究とかぶって演奏会に出れないということがありますね。4 年生まではだいたい出てました。練習が火曜 19 時～21 時、木曜は 18 時 30 分～21 時、日曜は 10 時～17 時なので、今は研究で日曜日の練習が行けないことが多く演奏会では全部で 4 曲演奏するうちの 1 曲しかでられなかったり。
Q.日曜日の活動時間 10 時から１７時って長いですね。大学院生もサークルにたくさん来てるんですか？
A.弦楽器は院生も多いです。他の楽器より人数が必要なので。ヴァイオリンだけで 20 人くらいいます。
Q.研究が始まると大変そうですね。それでは授業との両立は大変でしたか？
A.文学部は結構時間割を自分の思うように立てられるのであまり大変じゃありませんでした。理系の人は実験の時間が決まってたりと大変そうでしたね。休学して続ける人もいますよ。除籍になってしまう人も…。
Q.それだけオケが好きで続けている人が多いんですね。先程の話からは研究が始まってからが大変そうでしたけど、研究が始まってからは両立はできましたか。
A.やはり 1 週間フィールドワークがあったりすると練習に行けない。練習抜けるとついて行くのが大変になるんですよね。演奏会が年に 3 回あって、3 月と 6 月と 11 月なんですが、11 月の演奏会は 8 月くらいから練習を始めるんですよ。でも夏休み期間は研究もフィールドワークがあったりして、メインの練習期間と研究がかぶってしまうんです。だから 4 曲あるうちの 1 曲だけ演奏したりとなってしまうんですよね。
Q.両立するための工夫ってありますか？
A.自分はバイトをしてなかったのでそこまで両立は大変じゃありませんでした。バイトしている人は深夜とか朝のコンビニのバイトとかしてましたね。火、木、日の練習以外に個人でも練習するので大変そうでしたね。自分の時間が欲しかったり、就職のために勉強したかったりでやめてしまう人もいますね。
Q.就活の時期は大変そうですね。
A.うまくやっている人とうまくやれてない人二極化してましたね。
Q.大学院に行くということはいつから決めていたんでか？

A.私は４年生の６月くらいまで進路をどうするか決めてませんでした。考えてはいましたが。説明会に行ったりもしてみました。６月に今の院の先生と一緒にイベントをやって、そこで説明会行ってみたら？と言われて行ってみたんです。その辺で大学院に行くことを決めました。もう 9 月には院試でした。
Q.周りの人は決めていた時期だと思いますが、焦りませんでしたか？
A.そうでもなかったです。なんとかなるだろうって思ってました。
Q.そうなんですか。このころは忙しくてサークルに行けなかったですよね？
A.自分の場合は１つのことに集中するとパンクしてしまうので２つのことやるというのがいいんですよ。ヴァイオリン弾く時は頭をあまり使わないし。
Q.気分転換みたいな感じですね。それでは最後に、サークルをしているときの一週間のスケジュールを教えて下さい。
A.月曜　１限授業、その後北図書館で DVD 見る、午後から個人練習
　火曜　2～4 限が授業、19 時～21 時サークル
　水曜　　↓
　木曜　　↓　　18 時 30 分～21 時サークル
　金曜　　休み
　土曜　　休み
　日曜　10 時～17 時サークル
Q.バイトしてないと仕送りだけで生活していたんですか？
A.親は家賃だけ払ってくれて後は奨学金ですね。サークルも 1 カ月 1500 円で他の大学に比べたら高くないです。
他の大学と共演とかもします。
Q.じゃあ他の大学の人と関われるんですね。
A.はい。前に京都大学と共演しました。京都大学とかは毎年他の大学と共演しているみたいですよ。
Q.今日はたくさん時間いただいてしまって、ありがとうございました。

　以上、インタビュー内容の一例を挙げたが、このインタビューの内容から、1 年生が気になっていることを示すことができるような情報が得られた。例えば、どのような経緯でサークルに入ったのかという情報は、部活やサークルに入りたい、アルバイトを始めたいなど新しいことを始めたいと思っている学生にとって、有益な情報となるかもしれない。また、サークルと授業や研究との両立についても示されているので、まだ学部に移行していない 1 年生にとっては、学部に移行してからの状況や両立の仕方を知ることができて不安がなくなったり、不安が解消されたことで新たなことに挑戦できるかもしれない。また、具体的にスケジュールが示されることでさらに分かりやすくなっている。進路がなかなか決まらずに 4 年生の 6 月に大学院に進むことを決めたというエピソードは、同じように進路が決まらずに悩んでいる学生にとっては自分だけではないのだと感じることができるだ

ろう。就職活動や大学院入試などとサークルを両立できるのかと不安を感じている人にとっては、どのように両立していたかを知ることができる。このピア・サポーターは学部時代文学部であったが、自分の経験だけでなく、友達や先輩など他の学生の状況も話しているため、様々な学部での状況を知ることができる。大学院に行くことを決めた経緯からは、大学院に行くか迷っている人にとっては進路選択の参考になる情報であると考えられる。

一人のインタビュー内容だけでもこれだけの情報を収集することができた。このようなインタビューの内容は学生同士で気軽に話せるからこそ、聞き出せることであると考えられる。インタビューを受けていると、気軽に話せるためにインタビュー内容から外れてしまうこともあるが、そのような会話からこそ学生にとって有益な情報を得られているのではないかと感じる。このように、ピア・サポーターによるインタビューは学生の経験から様々な学生生活を提示できるという可能性を持っている。

また、ピア・サポーターとインタビューを受けてくれる学生とのつながりも作ることができている。インタビューを受けて情報を提供している側である学生も、ピア・サポーターとの会話の中で様々な視点を得られているという面もあるだろう。

５．考察

本企画は現在進行中の企画であるが、ここまでの活動から考察したい。本の回収時のアンケートやインタビューを通して、それぞれの学生生活を学生目線で細かいところまで聞き出すことができていると感じる。このように学生生活の細かいところまで聞き出すことができるのは、学生であるピア・サポーターだからこそできることであると感じている。学生同士ということで気軽に話してくれているため、大学の教員や職員ではこのようなことはできないだろう。

しかし、現時点での反省点もいくつかある。例えば、本の回収の告知方法である。学部の 3 年生以上に本を持ってきてほしかったため、各学部棟にポスターを掲示したが、各学部に 1 枚というとても小さな広報だったためにあまり周知されていないと感じている。ピア・カフェのアンケートで 1 年生が気になっていることを聞いたにもかかわらず、広報がうまくいかなければ情報を収集をすることができず、今後の情報の提供にもつながらない。改善のために、今後は各学部へのポスター掲示を増やす必要があると感じている。しかし、単に枚数を増やすだけではなく、本を持ってきてほしい対象の学生が多くいる場所に広報の範囲を広げることが必要だ。

また、インタビューという方法で学生から情報を集めるということはこれまで行ったことがなかったため、インタビューの方法などが共有できていなかったことも反省点として挙げられる。インタビューを受けながら書いたメモは簡略化されていて、インタビューを行った本人でなければその内容がわからない。そのため、インタビュー後のまとめの形式が整っていないと、今後学部紹介で情報を提示する際に形にすることができなくなってしまう。このようなことを防ぐためには、本の回収を始める前に上述した相互インタビューを行い、すべてのピア・サポーターがインタビューの仕方とその後の保存形式を確認する

べきだった。ピア・サポーター同士のインタビューはまだ全員が終了したわけではないので、この相互インタビューを早めに終わらせて全員がインタビューの仕方の確認をしなければならない。また、これまで行ったインタビューを振り返って、質問内容やインタビューの方法の改善を行う必要があると感じている。

上記のように、本企画で行ったアンケートとインタビューから得られた学生生活の情報は、後の章で示される学部紹介につながる予定である。